

棚田通信

NO4 2007.11

恵那市坂折棚田保存会

なごみの里だより

坂折棚田の全国ブランドを実感

(第13回全国棚田(千枚田)サミットに参加して)

第13回全国棚田(千枚田)サミットが、平成19年8月24日(金)～25日(土)に栃木県芳賀郡茂木町で開催され、恵那市から棚田保存会員を中心に23名が参加しました。

今回のテーマは「美しい土の里から」～棚田から明日への提言～。「先人達の生活や歴史を知り、棚田を次の時代に残して行くためには何が必要か」について地域の人達と調査研究している高校生の事例発表、棚田オーナー制や農村レストラン、都市と農



村交流を促進している事例発表など、棚田における様々な取り組みが紹介されました。また、最近のサミットは小中学生が必ず参加し、棚田の歴史、棚田の生き物、棚田の植物などの研究成果発表やサミット参加者の現地見学ガイドを担うなど、積極的に関わっており、今回は茂木町立中川小学校及び中川中学校の児童生徒のみなさんが頑張っておられました。

サミット参加での交流会も楽しみの一つです。全国から集まる棚田保存会のみなさんや棚田ファンと開催地の自慢の料理に舌鼓しながらの情報交換は大変意義深く、各地域の棚田保全や活性化への取り組みなどの情報が沢山得られて参考になります。

嬉しいのは、「坂折棚田」を参加者の多くが知っているということです。『石積の景観が素晴らしいね』『行ったことあるよ』『もっともっと交流しましょう』と話し掛けて貰えて、「坂折棚田」って全国ブランドなんだと実感しました。

来年の開催地の田上長崎市長とも親しく懇談しましたが「恵那市から沢山の方に来ていただきたい」と熱く要請されました。



棚田保存会の活動は単に景観を保全するだけではなく、そこで生き続けられるよう地域活性化を図って行くことが重要であり、全国の仲間との交流によって多くのことを学びながら一步一步前に進んで行きたいものです。

恵那市坂折棚田保存会 相談役 柘植 羌

『第1回坂折棚田フォトコンテスト』入賞決まる



最優秀賞に選ばれた 「花咲く里」

9月30日で応募を締め切り、10月7日に審査が行われました。

募集期間が短く作品が集まるか心配されましたが、県内外から応募人数57名、応募総数155点と多くの作品が集まりました。どの作品も力作で選考は難航しましたが、「あなたが後世に残したいと思う棚田の風景」を基準に棚田の営みや、都市住民との交流、棚田の四季などが映し出された作品を選考しました。

【フォトコンテスト審査結果】

最優秀賞	山根宏昭	桑名市	「花咲く里」
優秀賞	相田 明	可児市	「棚田ビオトープでの収穫」
優秀賞	小島宜子	名古屋市	「行進」
優秀賞	藤井秀幸	川辺町	「刈り入れ終わって」
佳作	丹羽明仁	小牧市	「収穫の頃」
佳作	池戸初男	恵那市	「坂折棚田の冬景色」
佳作	生駒善彦	御嵩町	「棚田の朝焼け」
特別賞	各務 猛	豊橋市	「棚田が映し出す人々の心」
特別賞	渡辺忠明	恵那市	「みのり」
特別賞	板津 進	中津川市	「田植えのころ」
特別賞	阿部 豊	倉敷市	「石積み棚田に遊ぶ」
特別賞	小池彰仁	恵那市	「秋空の下での収穫」
特別賞	坂田道郎	土岐市	「稲架組み」
特別賞	西村 誠	各務原市	「黄金色の里」
特別賞	足立 操	瑞浪市	「私もぼくもおてつだい」
特別賞	三宅嘉寛	恵那市	「今年も豊作、坂折棚田」

今回、入賞しました作品については「コスモブックセンター」で10月31日まで展示させていただきます。

反省点としては四季を通じた作品が少なかったため、募集期間を少し長めにとったほうがよいという意見があり、来年は早めに作品の募集を行いコンテストを引き続き実施します。



みのりの秋だ、稲刈りだ！「かりかぶ」だ！

今年は、大変暑い夏、猛暑でした。田植え後酷暑をしのいで育った稲は、いつものようにみのりの秋を迎えました。晴天に恵まれた9月23日、オーナーの皆さんによる稲刈りが行われました。刈取り作業の前に串原の「ささゆりの歌」が嶺洋子さんと大阪のコーラスグループにより発表されいよいよ稲刈りの始まりです。初めて鋸鎌を握る方、“ザクザク”と鎌を何回も引いたり押したりする方、“ザクッ”と一回で刈る方、なれてくると全員が一回刈りができるようになりました。担当した農家の人達の指導の下に、けがもなく刈取りを終了しておにぎりや棚田汁、地元漬物で昼食を楽しみました。



10月21日は収穫祭。この地方では「かりかぶ」という年中行事の1つでしたが、この頃は余り見られなくなりました。「かりかぶ」は今年の豊作を田の神様に感謝し、田の神様は山へ帰られるという伝えです。オーナーの方と保存会員が棚田屋敷に集まり収穫祭行事が行われました。まず始めに坂折棚田フォトコンテストの表彰式が行われ、餅つき、芋ごねもち、棚田きのこ汁などを食べながら交流しました。帰りにはオーナーの方々の田

で取れた玄米1袋(30kg)をもらい「来年もまた来ますよ」「是非来てください」と挨拶を交わし収穫祭を閉じました。

棚田ネットワークによる棚田ビオトープ設置。

坂折川のほとりで荒廃水田を復元して棚田ビオトープを造りました。設計、造成、調査は国際アカデミー(可児市春里)が担当しました。

ビオトープとは、自然の生態系を再現して次世代を担う人達(学生、児童)に自然環境の大切さを理解させる一つの手法です。1930年代(昭和の初め)頃の水田状態にして両生類(主としてカエル)の増殖や水生植物の調査を行うよう、荒廃田を復元しています。



全国棚田(千枚田)サミット

「土着民」を迎え、第4回記念コンサート開催



9月29日、坂折棚田広場にて平成15年に恵那市で開催された、全国棚田サミットを記念した第4回コンサートが、中津川市付知に拠点を置く「土着民」を迎えて行われました。

前日から雨が降り続き、野外でのコンサートができるか心配されましたが、準備を進める中で小降りとなり、棚田のあぜにカンテラが灯る幻想的な雰囲気のもとコンサートが行われました。最初に今年発表された「棚田音頭」の手踊りが披露され、コンサートを盛り上げていました。

***** 坂折棚田のお知らせ *****

○第2回坂折棚田石積塾開講

とき 11月24日(土)～25日(日)

ところ 坂折棚田

詳細について別紙応募要領を参照

○坂折棚田カレンダー作成

第1回フォトコンテスト入賞作品によるカレンダーを販売します。大きさは新聞紙2分(A1サイズ)。11月末には一部200円で販売する予定です。



年賀はがきに使われる朝日昇る棚田

○坂折棚田写真印刷年賀はがきの注文受付中

締切り；11月25日まで

値段；1枚60円

カレンダー・年賀はがきの申し込み先は中野方公民館まで TEL23-2113 FAX23-2073

あとかき

今年もオーナーの方々による稲刈りが無事終了し、収穫祭ではいもごねもちに棚田きのこ汁と、里山の幸がいっぱいの季節がやってきました。昔は当たり前前に生えていたイクチやシバモチも高級食材となりマツタケよりも貴重?になってきたような気がします。こういった食文化も坂折棚田を知っていただく大事な要素だと考えています。そして風景だけでなく食と絡めた発信をますます活動の中で進めていきたいと考えています。

恵那市坂折棚田保存会 事務局 (中野方振興事務所内) 23-2111